



TITLE:

京大上海センターニュースレター 第29号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第29号. 京大上海センターニュースレター 2004, 29

ISSUE DATE:

2004-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/26345>

RIGHT:

京大上海センターニュースレター

第 29 号 2004 年 11 月 1 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

- 11/13・14 自動車シンポジウムのご案内
- 11/5 復旦大学、京大上海センター、関西経済同友会、ハーバード大学ケネディスクール共同主催シンポジウムのご案内
- 11/18 上海センター・セミナーのご案内
- アジア比較経済思想シンポジウムのご報告

+++++

以前からお知らせの京都大学上海センター主催のシンポジウムです。しばらくお知らせをさせていただきます。

11 月 13 日・14 日上海センター主催講演会・研究会

中国の自動車産業—その過去・現在・将来を探る—のご案内

講演会

日 時●11 月 13 日(土)午後 2 時～6 時
場 所●京都大学法経総合研究棟大会議室
挨拶●金田章裕 京都大学副学長・理事
司 会●本山美彦 京都大学大学院経済学研究科教授
講演1●丸川知雄 東京大学社会科学研究所助教授 中国自動車製造法：日本との対比
講演2●嶋原信治 元トヨタ自動車中国事務所首席総代表 トヨタ自動車の進出過程
講演3●塩地 洋 京都大学大学院経済学研究科教授 中国における自動車流通
●懇親会

研究会

日 時○11 月 14 日(日)午前 9 時 30 分～午後 5 時
場 所○京都大学法経総合研究棟大会議室
報告1○高山勇一 現代文化研究所中国研究室室長 自動車産業政策
報告2○孫 飛舟 大阪商業大学総合経営学部助教授 3S・4S 店と自動車交易市场について
報告3○山口安彦 元本田技研工業中国業務室主幹 中国自動車企業の自主開発能力

報告4〇大原盛樹 アジア経済研究所研究員

オートバイ産業の競争環境

報告5〇上山邦雄 城西大学経済学部教授

日系メーカーの対中国戦略

以下のような共催シンポジウムを中国復旦大学で開催します。詳しい情報の入手に時間がかかり、ご案内が遅れましたが、上海在住の方など時間などが許されましたら、是非ご参加ください。

復旦大学、京大上海センター、関西経済同友会、

ハーバード大学ケネディスクール共同主催シンポジウム

「アジア新時代における、中国、米国、日本の役割」のご案内

日時 11月5日、会場 復旦大学逸夫楼2階会議室

10:00-11:40「中国経済の高度成長のアジアへの影響、日米中の役割」

華民 復旦大学世界経済研究所所長、村瀬哲司 京都大学留学生センター教授、
松下正幸 関西経済同友会代表幹事（松下電器産業副会長）など

13:10-14:40「経済問題のディスカッション」

15:00-17:40「アジア新時代、アジア・世界の安定のための安全保障における日米中の役割」

岡野幸義 関西経済同友会常任幹事、殷醒民 復旦大学経済学院教授、
孫哲 復旦大学米国研究センター教授など

17:40-18:10 閉幕式

会議では、レシーバーが配布され、同時通訳がなされるようです。なお、事前に参加予約が必要な可能性もありますので、ご注意ください。復旦大学か関西経済同友会に事前に連絡するのが望ましいです。

上海センター セミナーのご案内

「メコン開発をめぐる東アジアの域内協力-メコン河委員会の活動を中心に-」

日時 2004年11月18日（木） 午前10時30分～12時

場所 京都大学吉田キャンパス 法経総合研究棟2階大会議室

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/loc/campus-map.html>

講師 （社）海外農業開発コンサルタント協会 専務理事 的場泰信氏

的場氏は、1995～99年、メコン河委員会（旧メコン委員会を母体に発足）の初代事務局長として活躍されました。参加を希望される方は「11月18日（木）の上海センターセミナーに出席します」と明記いただきご氏名・ご所属をメールもしくはFAXにて11月15日（月）までにご連絡ください。

宛先は京都大学大学院経済学研究科上海センター北野宛です。

E-mail: kitano@econ.kyoto-u.ac.jp FAX: 075-753-3492

（文責 副センター長 北野）

アジア比較経済思想シンポジウムのご報告

10月11日月曜日の午後に京大会館211号室でシンポジウム「経済思想の比較文化的視点」Intercultural Perspectives on Economic Thought が開催された。最初に、オーガナイザーが、Opening Remarks でグローバル化しつつある現在における比較経済思想研究の意

義を述べた。

最初の報告者は、前欧州経済学史学会会長のベルトラム・シェフォールト **Bertram Schefold** 教授（フランクフルト大学）で、その編集する古典復刻シリーズに中国および日本の 経済思想古典（恒寛が編纂した前漢期の経済論争の記録である『塩鉄論』、および江戸期の三浦梅園の『俣原』）を収録し解説を執筆した経験をふまえて、道德論および政策論と深く結びついた東アジアの経済思想の特質について論じた。第2の報告者は、南アジアの現地研究を積み重ねてきた中村尚司龍谷大学教授で、民衆を基礎にした経済を市場経済に抗しつつ構築する方向を示した。第3の報告者は、イスラム経済史を専門とする加藤博一橋大学教授で、イブン・ハルドゥーンの都市経済論を紹介し、中近東のムスリム社会の経済的發展を妨げたのは政治的要因であって、宗教そのものではないと論じた。

報告・討論はすべて英語で行われたが、討論も活発で、経済と文化の一般的な関連のほかに、中国経済思想のなかでの国家と官僚制の問題、日本と中国での「礼」の差異、エコロジカルな保全思想、イスラム経済における徴利禁止などもとりあげられた。

このシンポジウムには、経済学史学会の関西部会も共催者となったが、欧米近代に偏った研究関心を打破する一歩になったと思われる。参加者も50人近くあり盛会であった。

（オーガナイザー：八木紀一郎記）